

## 【日本の大学】第94回—静岡県立大学：3公立大の特色引き継ぎ、地域を重視

静岡県立大学は静岡県内にあった三つの公立大学を統合して1987年に発足した。3大学とは静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学であり、それらの大学の特徴を引き継いで、現在は、薬学部、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部、看護学部という特色のある5学部と関連する大学院、短期大学部からなっている。

理念としては、「県民の誇りとなる価値ある大学」の実現を目指して、「たゆみない発展」「卓越した教育と高い学術性を備えた研究の推進」「学生生活の質を重視した勉学環境の整備」「地域社会と協働する広く県民に開かれた大学」などを掲げている。特に地域との関係を重視し、「地域社会に寄与する人材を育成する」、「教育・研究成果を地域へ還元する」、「地域文化の拠点であること」など、地域に立脚し、地域に開かれた大学であることを最大の目標として掲げた。

本部のある静岡市駿河区谷田の草薙キャンパスは、富士山を仰ぐ日本平中腹にある赤レンガ造りの校舎で、キャンパスの周辺には県立美術館、県立中央図書館、芝生園地があり、緑あふれた自然環境の中にある。



富士山が見える草薙キャンパス

以下、静岡県立大学のホームページや年史などから大学の沿革や現況をみていこう。

1987年に開学した静岡県立大学は薬学部、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部の4学部と短期大学部であった。キャンパスは薬学部が静岡市小鹿に、あとの3学部は現在本部のある静岡市谷田（草薙キャンパス）に、短期大学部は浜松市に置かれた（2000年に静岡市小鹿に移転）。いずれも、これまであった既存の大学・短期大学と同居する形だった。本部のある草薙キャンパスはまだ建設途上だったが、その後、本部キャンパスの体制が整ったのは1989年のことである。現在は、本部のある草薙キャンパスに大半が集約されており、小鹿キャンパスには、看護学部の専門科目を学ぶ新看護学部棟や短期大学部が置かれている。

## 百年超の歴史、薬学研究

薬学部の元となった静岡薬科大学は、1916年に地元で開業していた医師が創立した静岡女子薬学校が発端であり、百年を超える歴史がある。第2次大戦中に、静岡女子薬学専門学校となり、5年後には静岡薬学専門学校、さらに、1952年には経営母体を財団から県に移管して静岡県立薬学専門学校、1953年には静岡県立の静岡薬科大学となった。

1987年に県立大学の薬学部となったあとは、薬学科（6年制）と薬科学科（4年制）への組織替え（2006年）や、大学院の薬学専攻（博士課程）、薬科学専攻（博士前期・後期課程）、薬食生命科学専攻（博士後期課程）の設置（2012年）などを行ってきた。

薬学部は、化学、物理、生物を基礎とした知識と知恵（応用展開能力）を持ち、生命科学を基盤とする高度の「薬学的思考力」と「倫理観」を備えた創造性豊かな人材の育成に当たっている。4年制の薬科学科（創薬化学）と6年制の薬学科（医療薬学）による指導的人材の育成を行っている。薬科学科では、3年次の後半から全員がいずれかの研究室に所属し、教員の指導の下で、最新の研究機器を駆使した研究に取り組み、卒業論文にまとめる。薬学科では、病院実務実習に力点を置いており、静岡県立総合病院内の「薬学教育・研究センター」において教員の指導の下で、病院指導薬剤師の協力を得て、実務実習を行う。3年次後半から6年次にかけては講義や実習、演習がない時間を利用しての卒業研究を行って論文をまとめる。中国、米国、豪州などの大学の薬学部との学術文化交流協定を結んでおり、教員、研究者、学生の人的交流や共同研究・シンポジウムが盛んにおこなわれている。



草薙キャンパスユニバーシティプラザ及び学部棟

静岡女子大学は、1951年に創設されていた静岡女子短期大学を前身として1967年に静岡市谷田に開学している。学部は、文学部（国文学科、英文学科）と家政学部（食物学科、被服学科）の2学部2学科であった。1980年代に入って静岡女子大学から県立大学への移行、改組が議論される中で、文学部は新大学の国際関係学部国際言語文化学科へ移行し、家政学部のうち被服学科は廃止され、食物学科は食品栄養科学部に包含されることになった。

一方、静岡女子短期大学は、静岡女子大学が静岡市内に開学したことによって1968年から本部を浜松市布橋に移転する形となった。浜松での新生短期大学は当初、文科（英文専攻、国文専攻）しかなかったが、1971年には食物栄養学科が、1975年には看護学科（3年制と2年制）を新設している。1987年に県立大学に統合されるにあたって短期大学部となった。



静岡女子短期大学キャンパス



## 健康、環境面から「食」を研究

食品栄養科学部は、「食」と健康の問題、それを支える環境の問題を追求し、人々の「人生の質」の向上に貢献できる人材を育成することを目標にしている。当初、食品学科と栄養学科の2学科だったが、2007年には食品学科を食品生命科学科に、栄養学科を栄養生命科学科に変更、2014年には環境生命科学科を設置したことで、現在の3学科の体制となった。ヒトの健康維持に「食」が果たす役割と、持続可能で豊かな「食」を創造する方策を、食品科学、栄養科学、環境科学の3学問分野から探究している。学部の子生ははじめ、三つの学問分野を少しずつ学ぶことで、「食」に関わる広いつながりについて考える。3学科は、共通の講義や研究室間の共同研究など密接な連携体制をとっている。その後、各学科での専門性を高め、卒業研究では一人一人が個別のテーマに取り組み論理的思考、追及する姿勢など多くの力を身につけていく。

国際関係学部は、国際関係学科と国際言語文化学科の2学科8プログラムで構成されている。国際関係学科では、ボーダーレス化と多様化が進む国際社会における国際関係の諸要因を、政治学、経済学、法律学などの視点と、社会学、社会心理学、文化人類学などの視点から分析して教育・研究をしている。「国際公共政策プログラム」「国際開発プログラム」「共生社会プログラム」の3プログラムを設けている。



黄金色に輝くキャンパス

国際言語文化学科は、主要地域の言語・文化・思想・歴史などについて教育・研究し、国際相互理解を促進しようという学科である。この目的のため、コミュニケーションの手段として言語と、それと表裏一体の関係にある文化とを合わせて教育・研究していく。文化を国際的視野からとらえ直し、異なった文化を持つ人たちと「共生」していく能力を養う。学生の興味・進路に応じて「グローバル・コミュニケーション・プログラム」「比較文化プログラム」「日本研究プログラム」「アジア研究プログラム」「ヨーロッパ研究プログラム」の5プログラムを置いている。

経営情報学部は経営情報学科のみの単科学部であり、「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」の4分野の融合と専門性によって、社会においてイノベーションを担う課題解決型の人材を育成する。初年次には4分野の基本的知識を得た後で、4分野の専門性を磨くことで、一つ以上の専門的な科目を重点的に履修しながら関連分野にも精通した人材を育てる。文系、理系の垣根を超えた経営・総合政策・情報・数理の基礎科目と複合科目、全学共通科目を学び、3年次からはゼミ（1ゼミ当たり学生5～7人程度）に所属し、教員と密接なコミュニケーションを図りながら、理論と実践を積んでいく。4年次には学びの集大成として卒業研究に取り組む。



草薙キャンパス芝生園地

地域の保健医療に貢献



看護学部が設置されたのは1997年である。大学院の看護学研究科（修士課程）の設置は2001年だった。近年の保健医療の高度化や専門化、人口の高齢化に伴う疾病構造の変化、人々の健康に対する関心の高まりなど保健医療を取り巻く情勢は大きく変化してきている。そうしたニーズに対応する看護専門職が求められる中で、新学部が誕生した。専門的知識、高い技術を備え、適切な判断力と行動力を有し、地域社会の抱える保健医療問題に積極的な役割を果たせる質の高い看護職を養成するのが狙い。カリキュラムとしては、他学部の学生と共に学ぶ「基礎分野Ⅰ」、運動、研修、教育、主体性と判断力の養成、英語コミュニケーションの科目群から構成される「基礎分野Ⅱ」、看護学部独自の「専門基礎分野」、看護の専門性を学ぶ「専門分野」から構成されている。看護の基礎となる科目を草薙キャンパスで学び、専門科目は小鹿キャンパスで学ぶ。

開学以来、国際的な分野で活躍できる人材の育成や、国際的に開かれた大学となることを理念として掲げ、海外の大学などと国際交流を進めている。大学間交流協定は15か国28校と、部局間交流協定は、10か国22部局と締結している。協定を締結している8か国8大学との間で、交換留学を実施している。2022年には初の学生寮である「富学寮」が開かれた。草薙キャンパスの近くにあり日本人学生と外国人留学生が入居できる国際学生寮である。学生間の交流の場として、留学生と日本人学生とが顔を合わせ、日常会話を通じて留学生の日本語能力を高め、友情を深めることを目的とした「カンパセーションパートナー制度」や「国際交流談話室」、「ホームステイ」などの場を設けている。外国人留学生は14か国地域の73人である。（2023年5月現在）



国際学生寮——富学寮

学生数は学部生が 2903（うち女性 1826）人、大学院生が 340（うち女性 160）人である。教職員数は 378 人、うち専任教員数は 269 人（ほかに大学院専任教員 11 人）。（2023 年 5 月現在）

学長は現在、尾池和夫氏である。京都大学理学部卒、理学博士、1973 年京都大学防災研究所助教授、1988 年京都大学理学部教授、その後、同大学理学部長、副学長を経て 2003 年から総長（2008 年まで）。2009 年国際高等研究所長、2013 年京都造形芸術大学学長、2018 年から静岡県公立大学法人理事長などをへて 2021 年から静岡県公立大学理事長兼務で静岡県立大学学長。専門は、地震学、地球科学。著書は専門分野など多数。

日文：滝川 進

写真：静岡大学 FaceBook